

報 告

第 61 回日本歯科理工学会学術講演会報告

平成 25 年度春期第 61 回日本歯科理工学会学術講演会が、4 月 13、14 日の両日、昭和大学歯学部歯科保存学講座歯科理工学部門教授、宮崎 隆先生を大会長として、東京都江戸川区タワーホール船堀において開催された。本大会は、平成 24 年 12 月の法人化以降最初の記念すべき大会であり、大会一日目の午後には法人として初めての定時社員総会・会員総会が催された。役員名称等従来の総会とは異なった雰囲気ではあったが、塙 隆夫理事長の下、総会は滞りなく進行し、日本歯科理工学会の法人としての新たな可能性と社会的責任を感じさせるものとなった。また総会に先立ち、16 名の方々が日本歯科理工学会学会賞、功労賞、論文賞、IADR-DMGC-J 記念賞の表彰を受け、5 名の方々が名誉会員証を授与された。

本大会では口頭発表 22 題、ポスター発表 55 題の合計 77 演題の一般口演があり、熱心な質疑応答が行われた。最近の学術講演会の中では演題数が少ない方ではあったが、内容的には生体から数値解析に至るまで、歯科理工学が包含する範囲がより拡大している印象を受けた。また、国外からの一般口演のエントリーが 6 題あり、国内外に情報を発信し続ける本学会の意義を再認識した思いである。

特別講演では、株式会社新興セルビックの竹内 宏先生をお迎えし「群れない、媚びない、属さない『町工場からのイノベーション』」と題して、ものづくりに対する熱い想いを聞かせて頂いた。会場ではユニークなアイデアから生まれた卓上超小型射出成型機が披露され、日本

の技術が匠の技と発想に支えられていることを改めて知ることができた。

大会二日目には日本歯科医師会の富山雅史先生、東京都歯科医師会の細野 純先生、東北大学の佐々木啓一先生、日本歯科商工協会の山中通三先生から講演を頂き、大会長の宮崎 隆先生を座長として「歯科訪問診療の現状と器材への期待」と題したシンポジウムおよび Dental Materials Adviser/Senior Adviser 特別セミナーが催された。訪問診療は超高齢化社会を迎える日本にとって重要であるばかりでなく、その先には地震大国である日本における被災地での口腔ケアにつながるテーマであり、訪問診療を実践されている先生方や、産学官連携して歯科訪問診療用パッケージを開発している先生方の話題は大いに興味あるものであった。

本大会での懇親会は法人設立記念祝賀会を兼ね、大会一日目にタワーホール船堀のイベントホールで開催された。宴に先立ち榎本貢三先生より法人化への経緯の説明があり、法人化にご尽力された先生方に感謝状が贈られた。また、事務方として法人化に多大なる貢献をして頂いた口腔保健協会の掃部関 真氏にも感謝状が贈られた。その後、余興としてベルギーの Universiteit Gent から日本歯科大学に留学中の Valentin Vervack 氏による居合演武の披露などを交え、宴は終始和やかに進められた。

本学術講演会では、効率の良い運営によって気持ちの良い 2 日間を過ごさせて頂いた。これも宮崎 隆大会長、玉置幸道準備委員長をはじめとする多くのスタッフのご尽力による賜物であり、本大会の運営に携わったすべての方々に感謝を申し上げ、第 61 回日本歯科理工学会学術講演会の報告とさせていただきます。

赫多 清

(日本歯科大学新潟生命歯学部歯科理工学講座)

